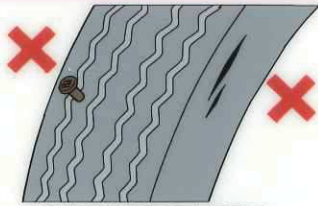


## ◦セミトレーラ編◦

### タイヤ&ハブナットの運行前点検実施



3.2mm以下高速走行禁止  
1.6mm以下走行禁止



10穴ホイールは左右とも、右ネジになります。

ナットの締付けは対角の順番



#### 締付け規定トルク

- ① 8穴スチール(ウエットタイプ) 540Nm~590Nm
- ② 8穴アルミ(ウエットタイプ) 440Nm~490Nm
- ③ 10穴スチール&アルミ共通(ドライタイプ) 600Nm~660Nm

### 連結確認



走行する前は毎回カプラーのロック装置がかかっているかを確認してください。ロックが外れていると、発進時トレーラが離脱する恐れがあります。

### 駐車ブレーキの解除



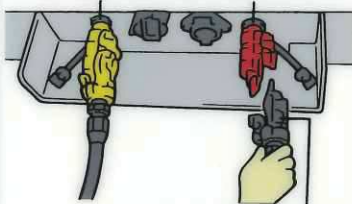
走行する前は毎回赤いつまみを押し込んで「駐車ブレーキ」解除を確認してください。「駐車ブレーキ」を作動させたまま走行すると、ブレーキを引きずったまま走行することになり、火災の原因となります。

### 接続順序厳守!

接続時 **コントロールラインを先に接続**

切離し時 **サブラインを先に切離し**

コントロールライン (サービスライン) サブライン (エマージェンシーライン)



トラクタ側カップリング金具

順序を誤るとトレーラが自走し重大事故が発生するおそれがあります。

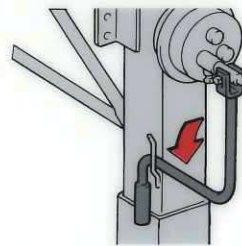
### フタは必ず取付

切離した際は雨やホコリの侵入を防ぐため、必ずフタをして下さい。



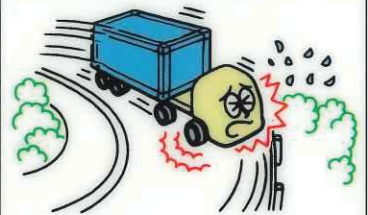
雨やホコリが侵入するとリレーバルブの凍結や作動不良の原因となります。また、サービスラインやエマージェンシーラインに入るとブレーキの解除遅れが発生し、引きずりの原因となります。

### 低速ギアで格納を



ニュートラル状態のまま走行すると振動で補助脚が自然降下し大変危険です。ハンドルも必ず格納して下さい。

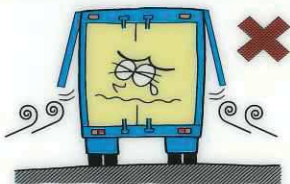
### ブレーキ注意!



長い下り坂でトレーラブレーキを多用すると、ライニングの摩耗だけでなく、過熱によるフェード現象を引き起こします。また火災が発生するおそれもあり大変危険です。

### 羽根は確実に閉める!

羽根を格納する際は、閉まってから2~3秒押し続け確実に閉め切ってください。閉まりきっていない場合、走行中に風圧で羽根が開く恐れがあり大変危険です。



### リレーエマージェンシーバルブの凍結について

トレクスのトレーラはトーカス(リレーバルブヒーター)が標準装備されています。(2006年~) トーカスはスモール系の電源を使用しているので凍結時はスモールランプを点灯して下さい。(−10℃で凍結したバルブを約5分で正常に作動させます)



リレーバルブ凍結防止のため、始業開始時には必ずトラクタ&トレーラともにエアタンクの水抜きを実施して下さい。



### 異常を感じたら即停車

走行中に異常を感じたら、安全を確保した上で即停車し、車両を点検してください。

- タイヤのバースト。
- いつもより車両が重い。
- 急に加速しなくなった。
- 焦げ臭いにおいがする。
- スイッチ類から煙がでた。



### エア圧低下注意

トラクタと連結して1晩置いた際、エア圧が1bar(バール)以上減っていたら、エア漏れの点検を実施してください。

1晩置いてエアが1bar以上減っていたら要点検

